



この季節に咲く花

日中の寒さも幾分かやわらぎをみせてきた。こうなるとおっくうになっていた散歩でもしたくなる。この時季、卒業を控えた学生があいさつがてら僕の部屋を訪ねてくれる。学生生活の失敗談や笑い話に花が咲き、そして最後にはまだ見ぬ新生活へ

の期待と不安の話が、それまで咲かせていた話の花を吹き散らせる。

そんな姿を見ていると、梅の花と、それを散らす春の風のように見えた。毎年恒例のこの風景は嫌いではないが何だか甘塩っぱい。心配しなくていい。いずれ立派な実をつけるようになるから。そう思いながら彼らの雑談に耳を傾ける中で、「柿根性」と「梅根性」の話思い出していた。

柿根性は渋くても干すなどひと手間加えると甘くなる。よく言えば臨機応変、悪く言えば八

方美人といわれる。梅根性はその酸っぱさが煮ても焼いても変わらないことから融通の利かない人、固い信念の持ち主に例えられるあの話。

日々刻々と変容する現代社会においては臨機応変さやしなやかさが強く求められる。しかし、ブレてはいけない大切なことも必ずある。地域社会を歩き、直面した課題に心を痛めたあの時の感覚や、自分の無力さに涙した体験。そこから自分を奮い立たせたものは何だっただろうと考えると、ブレてはいけないものが何なのかが分かるはずだ。

「共に良く生きたい」という思いがそれだよ、それに関しては頑固者でいてほしいと願っている。これは若者だけに強いられることではない。今、世界に目をやると信じ難い事態が起きている。大人も梅根性で「共に良く生きる」方法をしぶとく考えなければならない。

勇氣こそ 地の塩なれや 梅真白

中村草田男の句を学生に贈ると同時に、僕もかみしめた。

たかみ・だいすけ 日本文理大人間力育成センター長。専門は初年次教育、ユースワーク、ボランティア論。別府市在住。41歳。